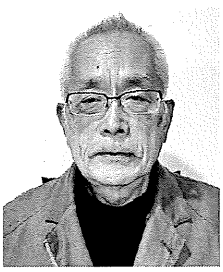
奥村氏


喜多村氏

横田氏

玉寄氏

斎藤氏

矢野氏

## 玉　寄氏
# 総括火葬技術管理士は従事者の地位向上達成の鍵

## 斎　藤氏
# 民間資格から公共性の高い資格へ昇華を

## 矢　野氏
# 誇りを持てる環境づくりと地位向上が急務

り、これらの虚飾を理解するための技術的な知識も指定管理者にとっては必要不可欠だと考えます。

火葬場について学べる場や書籍などはあまりに少なく、火葬場の管理者として専門的な知識や技術的な知識等を有する総括火葬技術管理士の果たす役割は今後、ますます重要となっていくと考えます。例えば地域社会への啓発活動として、官民等の実施する就活セミナーへの参加や市政への提言、地域住民への寄稿等を行っていくことで、火葬技術者や斎場職員が地域で果たす役割について知っていただく場を設けていくことが重要と思います。火葬に対する苦くからのイメージを払拭するためにも、現在の火葬技術について総括火葬技術管理士が広く説いていくべきだと思います。

**玉寄**　総括火葬技術管理士レベルでの知識習得に挑戦していますと、これまでに理解に至らなかった部分が確認でき、その過程で管理士としての使命を感じることができました。技術的なことも法律のことも大事ですが、その歴史や火葬の在り方、火葬に携わる者の資質とはという疑問が湧いて大きな経験になりました。

受講者には火葬に従事される方が多いのですが、炉の前に出ると遺族の接遇される方、霊きゅう業務に就かれる方、行政の管理者、設計やコンサルタントに関わるような方、炉メーカーの技術者の方や私のように会社経営する者もいます。総括火葬技術管理士は手がけれぞれの業務のみの知識、技量だけではなく、環境問題や歴史的背景を含めた総合的な知識や技術的な知識等を有が実施されており、当会の目的として掲げている、いわゆる火葬従事者の地位向上達成の鍵という気がします。それぞれ専門知識を持った人材で構成されると、火葬業界全体に波及する見解や、論文等が発表できるのではないかと考えています。総括火葬技術管理士の普及が進んだ後、当会が管理士会員の仕組みづくりを効果的なものにすれば、業界の底上げというが、影響力のある組織をつくる可能性があると感じています。

今後の火葬従事者の在り方を考えていくと、この国に合った火葬技術者、火葬従事者が必要だと強く思っています。その存在が火葬技術管理士であり、その理想に向かう日本火葬技術管理士会でありたいと思います。

**喜多村**　矢野さんのお話で、葬儀場も存続していることに加えて、副葬品についてリーダー的な役割を担っていただきたいと、こういう世の中に認められる一つの職域がでてきますと、それは何だ。わ振興がありました。斎藤さんは職員ミーティングをやっている。勤務ローテーションをうまく組み合わせることによって、有休もしっかり取れるようにする。長持ちさせるためには長期修繕計画のようなものを実施している。それぞれもっともなことであろうと思います。

あらためて考えてみますと、火葬場には何だろう。今火葬場の存在意義を問い直すことと、火葬場に対する期待は大きくなっている。昨今いわゆるエンディング産業、新たな市場の展開、国民側が求めている、火葬場に対する期待は大きくなっていたのですが、葬儀の形態が大きく変わる中で、市民側の意識が変わる機運がなくなってきている。

今の日本では、お見送りするときに欠かせないのが火葬です。これを中心に考えていくと、火葬場の将来展望が描けるのではないかと。そうするとこの業態が確固たる地位を固めることになってきますが、仏道って魂入れずではいけません。何事も動かすのは人です。玉寄会長さんを担うのか、誰がこれを取り仕切って方向付けをしていくのか。誰が世の中にアピールをしていくのか。そういう意味で私はこの業界の中で一つの資格ができることは大変好ましい。ただきたい、こういう世の中に認められる一つの職域がでてきますと、それは何だ。わ振興がありました。斎藤さんは川では終身雇用と言って、転職するまたゼロからになるわけですが、大きな火葬場施設でお通夜、そして葬儀業者にのしかかっ

**横田**　今日の朝日新聞（24年10月30日）に載っていた記事について紹介します。死者数が毎年増多を重ねる多死社会。一方で遺体の保全や管理については、公的なルールがない。弔いの任方、都市部での火葬場の不足を背景に火葬の待ち時間も延びている。この問題について、東京の「すいそうプラン」という葬儀業の社長さんの話をかいつまんで申し上げます。このフロアは全て遺体を安置する霊安室にしたので、「遺体を4体お預かりできます。以前は、病院でしなくなると、ご遺体は以上あるという話もありました。斎苑協会ではかつて、14の資格認定をしたことで努力されて、資格認定が制度方向にあると、国の認定は無理だというと、協会認定でスタートしました。公共性の高い位置付けの資格にたんとかできないものか。社会的な地位の向上に直結するのではないか。

**西川富郎**　先ほど火葬を行うと非常に電力がかなり要るということでした。もしインバーター制御で吸入とのバランスができるかどうか、将来的にそういうのが可能だ、できる技術があるのかお聞きしたい。

**江口正雄**　基本的には同の問題もありません。インバーターを付ければいいというわけではなくて、それを細かくいったものについて、関係者の方々がいろいろな機会にアピールし、それが社会的に受けられていかなければいけないということだと思います。

**長時間**　長時間にわたり、パネリストの皆さまには活発なご議論を、ご参加の皆さまにも最後まで熱心にお聞きいただき、ありがとうございました。

**玉寄**　総括火葬技術管理士の葬儀業者の話で、わが国の葬儀のあり方、火葬のあり方は一つの文化だとおっしゃられました。わが国の国民はこうです。これをじっくり把握して、伝播をして、みんなに伝えることができる機運がな、盛り上がりつつある状況ではないかなと。葬儀の簡素化が逆に一つの転機になってくるのではないかと思います。

**玉寄**　当会としては火葬技術管理士の資質向上と社会的地位向上は何をもって達成したと言えるのかということを模索しています。ただし現状は曖昧な問題、漠然の問題、事務的な問題、アピールの問題、企画力等の課題を抱えながらの運営です。全てないない尽くしです。今は本当に志がある有志が集まってボランティアでやっている状況です。

**矢野**　パネリストの斎藤さん、目的遂行に向けて粘り強くやりたいと思います。

**奥村**　会場からご意見があるようです。

**三木求**　玉寄会長から社会的地位の向上の話があり、矢野さんからは民間資格が4千以上あるという話もありました。斎苑協会ではかつて、14の資格認定をしたことで努力されて、資格認定が制度方向にあるとの話もありました。

2点目は、民間資格ではありますが、火葬技術管理士が制度化されました。火葬場の実質的な運営は技術者の皆さんですので、総括火葬技術管理士は火葬場の管理の技術責任者として、市町村の行政当局、地域住民にいろいろな機会を通じて説明し、理解を求めていく立場にあると思います。

3点目は、そうした職員の皆さんの職場環境が改善され、また処遇を含めた状況が改善され、生きがいをもって仕事をしていただき、社会的評価も高まっていかなければならない。それは火葬に携わる方々の地位の向上であり、火葬技術管理士会がまさに旗印としていることです。火葬場の現状、火葬場の在り方と、関係者のいろいろな機会にアピールし、それが社会的に受けられていかなければいけないということだと思います。

**長時間**　パネリストの皆さまには活発なご議論を、ご参加の皆さまにも最後まで熱心にお聞きいただき、ありがとうございました。

**横田**　火葬技術管理士は協会の民間資格でスタートしたわけですが、社会に受け入れられて実効性が上がってこれば、ぜひこれを公的な資格にしようというような考え持っていきたいと思います。

**最後に**、このシンポジウムのまとめです。1点目は、火葬場は、大型化、近代化、公園が制御され、地域に理解される施設へ変わってきています。しかし、ダイオキシン対策は十分なのか。また、脱炭素化といった新しい課題にどう応えていくか等はこれからの課題です。

2点目は、民間資格ではありますが、火葬技術管理士が制度化されました。火葬場の実質的な運営は技術者の皆さんですので、総括火葬技術管理士は火葬場の管理の技術責任者として、市町村の行政当局、地域住民にいろいろな機会を通じて説明し、理解を求めていく立場にあると思います。

3点目は、そうした職員の皆さんの職場環境が改善され、また処遇を含めた状況が改善され、生きがいをもって仕事をしていただき、社会的評価も高まっていかなければならない。それは火葬に携わる方々の地位の向上であり、火葬技術管理士会がまさに旗印としていることです。火葬場の現状、火葬場の在り方と、関係者のいろいろな機会にアピールし、それが社会的に受けられていかなければいけないということだと思います。

**長時間**　パネリストの皆さまには活発なご議論を、ご参加の皆さまにも最後まで熱心にお聞きいただき、ありがとうございました。

**横田**　今日の朝日新聞（24年10月30日）に載っていた記事について紹介します。死者数が毎年増多を重ねる多死社会。一方で遺体の保全や管理については、公的なルールがない。弔いの任方、都市部での火葬場の不足を背景に火葬の待ち時間も延びている。この問題について、東京の「すいそうプラン」という葬儀業の社長さんの話をかいつまんで申し上げます。このフロアは全て遺体を安置する霊安室にしたので、「遺体を4体お預かりできます。以前は、病院でしなくなると、ご遺体は以上あるという話もありました。斎苑協会ではかつて、14の資格認定をしたことで努力されて、資格認定が制度方向にあると、国の認定は無理だというと、協会認定でスタートしました。公共性の高い位置付けの資格にたんとかできないものか。社会的な地位の向上に直結するのではないか。

**西川富郎**　先ほど火葬を行うと非常に電力がかなり要るということでした。もしインバーター制御で吸入とのバランスができるかどうか、将来的にそういうのが可能だ、できる技術があるのかお聞きしたい。

**江口正雄**　基本的には同の問題もありません。インバーターを付ければいいというわけではなくて、それを細かくいったものについて、関係者の方々がいろいろな機会にアピールし、それが社会的に受けられていかなければいけないということだと思います。

**喜多村**　代表住宅管理士と言う資格があります。これはいう民間資格でしたが、国家資格になりましたら、いわゆるサブリース問題で被害を受けた人予算委員会で岸田文雄総理（当時）は与党議員の質問に対し、「近体の取り扱いに関する提案を調査したうえで、新たにルール作りを検討する」考え示しました。厚生労働省は「行政としてどうしていくかこれから検討したい（全国宅建生調）」として、そういう面での共通性があるのではないかと思います。

ものを持つ必要があるのではないと思います。

**矢野**　パネリストの斎藤さんのお話をお伺いまして、関係なと関係で、非常に似たところが多間題点としているので、全国的な課題である福島しまして。火葬に携事する人たちが、ご期待しています。

**玉寄**　当会としては火葬技術管理士の資質向上と社会的地位向上は何をもって達成したと言えるのかということを模索しています。ただし現状は曖昧な問題、漠然の問題、事務的な問題、アピールの問題、企画力等の課題を抱えながらの運営です。全てないない尽くしです。今は本当に志がある有志が集まってボランティアでやっている状況です。

**最後に**、このシンポジウムのまとめです。1点目は、火葬場は、大型化、近代化、公園が制御され、地域に理解される施設へ変わってきています。しかし、ダイオキシン対策は十分なのか。また、脱炭素化といった新しい課題にどう応えていくか等はこれからの課題です。

2点目は、民間資格ではありますが、火葬技術管理士が制度化されました。火葬場の実質的な運営は技術者の皆さんですので、総括火葬技術管理士は火葬場の管理の技術責任者として、市町村の行政当局、地域住民にいろいろな機会を通じて説明し、理解を求めていく立場にあると思います。

3点目は、そうした職員の皆さんの職場環境が改善され、また処遇を含めた状況が改善され、生きがいをもって仕事をしていただき、社会的評価も高まっていかなければならない。それは火葬に携わる方々の地位の向上であり、火葬技術管理士会がまさに旗印としていることです。火葬場の現状、火葬場の在り方と、関係者のいろいろな機会にアピールし、それが社会的に受けられていかなければいけないということだと思います。

**長時間**　パネリストの皆さまには活発なご議論を、ご参加の皆さまにも最後まで熱心にお聞きいただき、ありがとうございました。

**奥村**　火葬技術管理士は協会の民間資格でスタートしたわけですが、社会に受け入れられて実効性が上がってこれば、ぜひこれを公的な資格にしようというような考え持っていきたいと思います。

**最後に**、このシンポジウムのまとめです。1点目は、火葬場は、大型化、近代化、公園が制御され、地域に理解される施設へ変わってきています。しかし、ダイオキシン対策は十分なのか。また、脱炭素化といった新しい課題にどう応えていくか等はこれからの課題です。

2点目は、民間資格ではありますが、火葬技術管理士が制度化されました。火葬場の実質的な運営は技術者の皆さんですので、総括火葬技術管理士は火葬場の管理の技術責任者として、市町村の行政当局、地域住民にいろいろな機会を通じて説明し、理解を求めていく立場にあると思います。

3点目は、そうした職員の皆さんの職場環境が改善され、また処遇を含めた状況が改善され、生きがいをもって仕事をしていただき、社会的評価も高まっていかなければならない。それは火葬に携わる方々の地位の向上であり、火葬技術管理士会がまさに旗印としていることです。火葬場の現状、火葬場の在り方と、関係者のいろいろな機会にアピールし、それが社会的に受けられていかなければいけないということだと思います。

**長時間**　パネリストの皆さまには活発なご議論を、ご参加の皆さまにも最後まで熱心にお聞きいただき、ありがとうございました。

**横田**　今日の朝日新聞（24年10月30日）に載っていた記事について紹介します。死者数が毎年増多を重ねる多死社会。一方で遺体の保全や管理については、公的なルールがない。弔いの任方、都市部での火葬場の不足を背景に火葬の待ち時間も延びている。この問題について、東京の「すいそうプラン」という葬儀業の社長さんの話をかいつまんで申し上げます。このフロアは全て遺体を安置する霊安室にしたので、「遺体を4体お預かりできます。以前は、病院でしなくなると、ご遺体は以上あるという話もありました。斎苑協会ではかつて、14の資格認定をしたことで努力されて、資格認定が制度方向にあると、国の認定は無理だというと、協会認定でスタートしました。公共性の高い位置付けの資格にたんとかできないものか。社会的な地位の向上に直結するのではないか。

**西川富郎**　先ほど火葬を行うと非常に電力がかなり要るということでした。もしインバーター制御で吸入とのバランスができるかどうか、将来的にそういうのが可能だ、できる技術があるのかお聞きしたい。

**江口正雄**　基本的には同の問題もありません。インバーターを付ければいいというわけではなくて、それを細かくいったものについて、関係者の方々がいろいろな機会にアピールし、それが社会的に受けられていかなければいけないということだと思います。

**喜多村**　代表住宅管理士と言う資格があります。これはいう民間資格でしたが、国家資格になりましたら、いわゆるサブリース問題で被害を受けた人予算委員会で岸田文雄総理（当時）は与党議員の質問に対し、「近体の取り扱いに関する提案を調査したうえで、新たにルール作りを検討する」考え示しました。厚生労働省は「行政としてどうしていくかこれから検討したい（全国宅建生調）」として、そういう面での共通性があるのではないかと思います。

ものを持つ必要があるのではないと思います。

**矢野**　パネリストの斎藤さんのお話をお伺いまして、関係なと関係で、非常に似たところが多間題点としているので、全国的な課題である福島しまして。火葬に携事する人たちが、ご期待しています。

**玉寄**　当会としては火葬技術管理士の資質向上と社会的地位向上は何をもって達成したと言えるのかということを模索しています。ただし現状は曖昧な問題、漠然の問題、事務的な問題、アピールの問題、企画力等の課題を抱えながらの運営です。全てないない尽くしです。今は本当に志がある有志が集まってボランティアでやっている状況です。

**最後に**、このシンポジウムのまとめです。1点目は、火葬場は、大型化、近代化、公園が制御され、地域に理解される施設へ変わってきています。しかし、ダイオキシン対策は十分なのか。また、脱炭素化といった新しい課題にどう応えていくか等はこれからの課題です。

2点目は、民間資格ではありますが、火葬技術管理士が制度化されました。火葬場の実質的な運営は技術者の皆さんですので、総括火葬技術管理士は火葬場の管理の技術責任者として、市町村の行政当局、地域住民にいろいろな機会を通じて説明し、理解を求めていく立場にあると思います。

3点目は、そうした職員の皆さんの職場環境が改善され、また処遇を含めた状況が改善され、生きがいをもって仕事をしていただき、社会的評価も高まっていかなければならない。それは火葬に携わる方々の地位の向上であり、火葬技術管理士会がまさに旗印としていることです。火葬場の現状、火葬場の在り方と、関係者のいろいろな機会にアピールし、それが社会的に受けられていかなければいけないということだと思います。

**長時間**　パネリストの皆さまには活発なご議論を、ご参加の皆さまにも最後まで熱心にお聞きいただき、ありがとうございました。

**横田**　今日の朝日新聞（24年10月30日）に載っていた記事について紹介します。死者数が毎年増多を重ねる多死社会。一方で遺体の保全や管理については、公的なルールがない。弔いの任方、都市部での火葬場の不足を背景に火葬の待ち時間も延びている。この問題について、東京の「すいそうプラン」という葬儀業の社長さんの話をかいつまんで申し上げます。このフロアは全て遺体を安置する霊安室にしたので、「遺体を4体お預かりできます。以前は、病院でしなくなると、ご遺体は以上あるという話もありました。斎苑協会ではかつて、14の資格認定をしたことで努力されて、資格認定が制度方向にあると、国の認定は無理だというと、協会認定でスタートしました。公共性の高い位置付けの資格にたんとかできないものか。社会的な地位の向上に直結するのではないか。

**西川富郎**　先ほど火葬を行うと非常に電力がかなり要るということでした。もしインバーター制御で吸入とのバランスができるかどうか、将来的にそういうのが可能だ、できる技術があるのかお聞きしたい。

**江口正雄**　基本的には同の問題もありません。インバーターを付ければいいというわけではなくて、それを細かくいったものについて、関係者の方々がいろいろな機会にアピールし、それが社会的に受けられていかなければいけないということだと思います。

**喜多村**　代表住宅管理士と言う資格があります。これはいう民間資格でしたが、国家資格になりましたら、いわゆるサブリース問題で被害を受けた人予算委員会で岸田文雄総理（当時）は与党議員の質問に対し、「近体の取り扱いに関する提案を調査したうえで、新たにルール作りを検討する」考え示しました。厚生労働省は「行政としてどうしていくかこれから検討したい（全国宅建生調）」として、そういう面での共通性があるのではないかと思います。

ものを持つ必要があるのではないと思います。

**矢野**　パネリストの斎藤さんのお話をお伺いまして、関係なと関係で、非常に似たところが多間題点としているので、全国的な課題である福島しまして。火葬に携事する人たちが、ご期待しています。

**玉寄**　当会としては火葬技術管理士の資質向上と社会的地位向上は何をもって達成したと言えるのかということを模索しています。ただし現状は曖昧な問題、漠然の問題、事務的な問題、アピールの問題、企画力等の課題を抱えながらの運営です。全てないない尽くしです。今は本当に志がある有志が集まってボランティアでやっている状況です。

**最後に**、このシンポジウムのまとめです。1点目は、火葬場は、大型化、近代化、公園が制御され、地域に理解される施設へ変わってきています。しかし、ダイオキシン対策は十分なのか。また、脱炭素化といった新しい課題にどう応えていくか等はこれからの課題です。

2点目は、民間資格ではありますが、火葬技術管理士が制度化されました。火葬場の実質的な運営は技術者の皆さんですので、総括火葬技術管理士は火葬場の管理の技術責任者として、市町村の行政当局、地域住民にいろいろな機会を通じて説明し、理解を求めていく立場にあると思います。

3点目は、そうした職員の皆さんの職場環境が改善され、また処遇を含めた状況が改善され、生きがいをもって仕事をしていただき、社会的評価も高まっていかなければならない。それは火葬に携わる方々の地位の向上であり、火葬技術管理士会がまさに旗印としていることです。火葬場の現状、火葬場の在り方と、関係者のいろいろな機会にアピールし、それが社会的に受けられていかなければいけないということだと思います。

**長時間**　パネリストの皆さまには活発なご議論を、ご参加の皆さまにも最後まで熱心にお聞きいただき、ありがとうございました。